

令和3年度

事業報告

日本赤十字社滋賀県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

はじめに	1
I 支部事業・一般会計決算概要	2
1 新型コロナウイルス感染症への対応	2
(1) 滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへの支援	2
(2) 無症状者・軽症者向け宿泊療養施設への医療従事者の派遣	2
(3) 赤十字病院での感染者等受入れ	2
(4) 県内赤十字医療施設に対する支援	2
(5) 支部の各事業における新型コロナウイルス感染症対応	3
2 評議員会並びに監査等の実施	6
(1) 評議員会の開催	6
(2) 監査委員による監査の実施	6
(3) 日本赤十字社理事会・代議員会等への出席	6
(4) 支部名誉職員名簿	7
3 全国赤十字大会への参加	8
4 会議の開催等	8
(1) 会議の開催	8
(2) 地区分区赤十字事務打ち合わせ会の実施	9
5 会員増強運動の推進と実績	10
(1) 会員増強運動の推進	10
(2) 令和3年度活動資金募集実績	10
(3) 個人向けダイレクトメールによる活動資金募集実績	12
(4) 法人活動資金募集の実績	12
(5) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進	13
(6) 赤十字会員数	13
(7) 有功章等受章者数	13
6 災害救護活動	14
(1) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況	14
(2) 義援金、海外救援金の受付状況	14
(3) 救護資機材の整備	16
(4) 研修	16
(5) 救護員の登録状況	16
(6) 救護資材整備状況及び救援物資備蓄状況	17
7 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及	17
(1) 救急法	17
(2) 健康生活支援講習	17
(3) 幼児安全法	18
(4) 水上安全法	18
(5) 講習指導員の研修	18

(6) 各種講習指導員数	18
(7) 防災教育の普及	18
(8) 滋賀県安全法指導員協議会	19
8 赤十字奉仕団	19
(1) 設団状況	19
(2) 地域赤十字奉仕団の活動	20
(3) 青年赤十字奉仕団の活動	23
(4) 滋賀県無線赤十字奉仕団・滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動	23
(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動	25
(6) 個人ボランティア	26
9 青少年赤十字	26
(1) 加盟校の状況	26
(2) 青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催	27
(3) 本社及びブロック主催の講習会、研修会開催状況	27
(4) 支部主催のトレーニングセンター開催状況	27
(5) その他の会議・行事等	27
(6) 青少年赤十字全国指導者協議会会長の就任	29
(7) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業	29
(8) 青少年赤十字機関紙「JRCしが」の発行	29
10 看護師の教育	29
11 国際活動	30
(1) 「NHK海外たすけあい」キャンペーンの実施	30
12 赤十字思想の普及	30
(1) 本社作成の広報資材の配布	30
(2) 支部作成の広報資材の配布	31
(3) 世界赤十字デー周知キャンペーン	31
(4) 主な広報活動	31
(5) 「ACTION！防災・減災」の実施	32
13 有功会	33
(1) 会員の数（個人・法人）	33
(2) 事業内容	33
14 一般会計決算概要	35
II 医療事業・医療施設特別会計決算概要	36
1 大津赤十字病院	36
2 大津赤十字志賀病院	39
3 長浜赤十字病院	41
III 血液事業概要	44
滋賀県赤十字血液センター	44

はじめに

この2年余り、日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症への対応に総力をあげて取り組んできました。現在も全国の赤十字病院で多くの患者さんを受け入れ、スタッフが緊張感を持ちながら献身的な努力を続けています。

コロナ禍は、医療現場のみならず、日本赤十字社のあらゆる事業に多大な影響を与えました。血液事業では、当初予定していた企業献血等が中止になるなど深刻な状況となりましたが、多くの関係者のご理解とご尽力により血液の安定供給を確保することができました。このほか、災害救護や各種の講習事業をはじめ、ボランティア活動や防災セミナー、青少年赤十字事業等についても、これまで以上にICTを活用するといった創意工夫を重ねるとともに、「新しい生活様式」に対応した事業のかたちを模索する日々が続きました。

こうした活動に対して、多くの県民の皆様や企業・団体の方々から、温かい励ましのメッセージや様々な形でのご支援をいただきました。そのことが第一線の職員には大変大きな支えとなっています。

日本赤十字社は、創立時よりその時代ごとの社会課題やニーズに応え、人々の「いのちと健康、尊厳を守る」という使命の達成に努めてまいりました。しかし、国の内外をとおして、私たちを取り巻く環境は激しい変動の真ただ中にあります。新型コロナウイルス感染症に限らず、様々な人道問題が国境を越えて拡大を続けています。私たちは、赤十字の先輩たちがそうであったように、急速、急激に進む環境変化に柔軟に対応していかなければなりません。私たちの活動に期待し信頼を寄せてくださる多くの県民の方々の想いに応えられるよう、常に点検と見直しを行うとともに環境の変化を見極め、「人道」を基本理念に、地域に根差した赤十字活動を今後も積極的に展開してまいります。

コロナ禍とそれに伴う厳しい経済状況の中、赤十字活動を財政面で支えていただいている赤十字会員の皆様、活動推進の直接の担い手である赤十字奉仕団等ボランティアの皆様、赤十字活動を総合的に支えていただいている地区・分区等関係機関の皆様、並びに多くの県民の皆様には、日頃からの力強いご支援に心から感謝申し上げます。

ここに、令和3年度の日本赤十字社滋賀県支部事業を報告いたしますとともに、引き続き皆様方からの温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年5月

日本赤十字社滋賀県支部

I 支部事業・一般会計決算概要

1 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症は、令和3年度においてもデルタ株やオミクロン株といわれる変異が起こり、第4波から第6波が発生するなど猛威をふるった。

滋賀県支部は、令和2年度に続きこのような状況に対応するため次のような活動を実施した。

(1) 滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへの支援

滋賀県からの要請に基づき、感染者の入院先調整業務等を支援するため、以下のとおり滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへ大津・長浜の各赤十字病院から職員を派遣した。

派遣期間	施設名	活動場所	人数
4月1日～3月31日	大津赤十字病院	滋賀県危機管理センター	医師158人、看護師58人、業務調整員165人
4月1日～3月31日	長浜赤十字病院	滋賀県危機管理センター	医師50人、看護師30人、業務調整員20人

※派遣人数は延べ人数

(2) 無症状者・軽症者向け宿泊療養施設への医療従事者の派遣

滋賀県からの要請に基づき、軽症者等の宿泊療養施設（大津市および彦根市）および滋賀県見守り観察ステーションでの受け入れ支援のため、大津・長浜の各赤十字病院から職員を派遣した。

派遣期間	施設名	活動場所	人数
4月1日～3月31日	大津赤十字病院	大津市	医師112人
8月30日～9月13日	大津赤十字病院	滋賀県見守り観察ステーション	医師8人、看護師8人、業務調整員4人
4月1日～3月31日	長浜赤十字病院	彦根市	医師90人、看護師36人

※派遣人数は延べ人数

(3) 赤十字病院での感染者等受入れ

大津、大津志賀、長浜の各赤十字病院では、厚生労働省をはじめ各行政機関からの要請に応じ、帰国者・接触者外来の設置や新型コロナ対策病床の拡充を行い、感染者等の受け入れと治療にあたっている。

<参考> 病床数：大津25床、大津志賀25床、長浜24床

(令和4年3月31日時点)

(4) 県内赤十字医療施設に対する支援

滋賀県支部は、感染症患者を受け入れ続け治療にあたる県内赤十字医療施設の新型コロナウイルス感染への対応強化を支援するため、令和2年度に続き令和3年度においても資金の支援を行った。

- ア 大津赤十字病院 150万円
- イ 大津赤十字志賀病院 150万円
- ウ 長浜赤十字病院 200万円

(5) 支部の各事業における新型コロナウイルス感染症対応

ア オンライン形式による講習会等の実施

滋賀県支部に所属する講習指導員への指導内容や実技指導の伝達については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度以降実施できない状況が続いていたが、令和3年度においてはオンライン形式を取り入れた研修を実施することで、参加者全体の約7割がオンライン形式で受講するなど、感染症流行期においても研修を実施することが可能となった。

(指導員研修の実施状況)

実施形式	実施回数(回)
オンライン形式のみ	2
オンライン形式と集合形式の併用	6
集合形式	6

イ 奉仕団研修シリーズDVDの作成

従来、地域奉仕団における研修会などは集合形式により行われていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により研修会が実施できていない状況であったこと、その一方で団員増強などの諸課題を解決するためには一層の研修体制の充実が必要であることから、奉仕団員が公民館等の場で小規模なグループにおいても簡便に研修を受けることができるよう研修動画資料を作成した。

① 名称

「赤十字奉仕団研修シリーズ」DVD全7巻

② 内容

第1巻 赤十字について

第2巻 地域赤十字奉仕団の必要性と活動の充実に向けて

第3巻 基本目標と奉仕団活動(実践編)

第4巻 地域赤十字奉仕団のリーダーについて

第5巻 仲間づくりを進めるために(地域赤十字奉仕団組織強化の基本計画の解説)

第6巻 災害への備えと奉仕団活動

第7巻 日本赤十字社のしくみと活動

③ 作成数

25セット

④ 配付先および配付時期

21地区区分 令和3年4月23日

ウ 地域赤十字奉仕団の主な取組み

① ワクチン接種会場での奉仕活動

奉仕団	会場	活動人数
大津市	琵琶湖グランドホテル	434人
	皇子山体育館	
長浜市木之本	長浜市立湖北病院	59人
近江八幡市	あづちマリエート	192人
栗東市	アルプラザ栗東	38人
甲賀市水口町	甲賀市水口町体育館	193人
甲賀市土山町	甲賀市水口町体育館	23人
甲賀市甲賀町	忍の里プラザ	30人
甲賀市甲南町	甲南会場「プララ」	38人
	甲賀市水口町体育館	
甲賀市信楽町	甲賀市開発センター	54人
高島市マキノ	マキノ公民館	8人
高島市今津	高島市今津保健センター	24人
高島市朽木	朽木保健センター	8人
高島市高島	高島総合保健センター	8人
東近江市八日市	アピア会場	55人
東近江市永源寺	アピア会場	30人
東近江市五個荘	東近江市能登川やわらぎホール	50人
東近江市愛東	旧湖東保健センター	6人
東近江市湖東	旧湖東保健センター	4人
東近江市能登川	東近江市能登川やわらぎホール	210人
東近江市蒲生	東近江市蒲生支所	168人
日野町	わたむきホール虹	578人

② 感染症対策用品作製

奉仕団	用品名	寄託先	数量	活動人数
大津市（唐崎分団）	雑巾	乳児院、施設、病院、災害地	425	10人
大津市（滋賀分団）	雑巾	乳児院、施設、病院、災害地	50	7人
近江八幡市安土	雑巾	幼稚園、こども園、保育園	550	約60人
東近江市能登川	雑巾	能登川地域の幼稚園、小中学校、福祉施設16か所	340	14人

③ その他の活動

奉仕団名	活 動 内 容
草津市	「コロナに負けない炊き込みご飯まごころ便」を実施し、地域サロンの方に炊き込みご飯を672食届けた。
守山市	高齢者訪問活動時に除菌ウエットティッシュを届けた。
東近江市能登川	市の保健師を講師に迎え、「コロナ禍における活動と感染予防対策研修会」を開催した。

エ JRC加盟校を対象とした新型コロナウイルス対策コンテストの実施

新型コロナウイルス感染症の流行により、各教育現場において、さまざまな感染予防対策が講じられていることから、各校（園）での取り組み事例を募集し、応募内容を青少年赤十字加盟校（園）間で共有することにより、今後の感染予防に役立てていただくことと、当該事業を通して青少年赤十字活動への理解と関心を高めることを目的に実施した。

- ・募集期間 令和3年5月17日（月）～12月28日（火）
- ・応募数 11校
- ・選考結果 以下のとおり

受 賞	活動タイトル	学 校 名
最優秀賞	・手洗いのうたプロジェクト	大津市立南郷小学校
優 秀 賞	・オンライン始業式 ・手洗いタイムは楽しく、確実にほか	草津市立老上中学校
優 秀 賞	・たっブリ距離をとってイルカ？	守山市立守山小学校
優 秀 賞	・青空音楽会 ・青空本ミート	甲賀市立小原小学校

オ 啓発活動等

① 特設サイトの更新

新型コロナウイルス感染症に対する滋賀県内の赤十字施設の取り組みについて取りまとめた特設サイトを随時更新している。

② 新型コロナウイルス通信の発出

特設サイトの記事を広く知っていただくことを目的として、地区分区窓口へ新型コロナウイルス通信を発出し、県民の皆様へ、滋賀県支部における新型コロナウイルスへの取り組みや、感染症の状況などについてお知らせした。

2 評議員会並びに監査等の実施

(1) 評議員会の開催

開催月	開催方法	議 案 等
(第1回) 令和3年6月	文書審議	第1号議案 令和2年度事業報告及び歳入歳出決算について (監査委員監査報告書を添付)
(第2回) 令和4年2月	文書審議	第1号議案 令和4年度事業計画について 第2号議案 令和4年度歳入歳出予算について 第3号議案 役員の選出について

(2) 監査委員による監査の実施

令和2年度の業務の管理及び執行並びに会計について監査委員による監査を実施した。

(日本赤十字社が会計の監査を委託している監査法人の監査概要を添付(ただし滋賀県赤十字血液センターは除く))

監査対象施設

日本赤十字社滋賀県支部

大津赤十字病院

大津赤十字志賀病院

長浜赤十字病院

滋賀県赤十字血液センター

(滋賀県赤十字血液センターは、業務監査のみ実施)

監査実施日

令和3年6月4日(金)

監査実施場所

日本赤十字社滋賀県支部会議室

(3) 日本赤十字社理事会・代議員会等への出席

名 称	開 催 日	出 席 者 (対象者)	内 容
日本赤十字社 理 事 会	6月25日(金) (Web)	坂口理事	1 規則の改正について 2 不動産の処分について 3 第98回代議員会に付議する事項 について ① 役員の選出 ② 令和2年度事業報告及び収 支決算の承認
日本赤十字社 第98回代議員会	文書審議	坂口代議員、 中村代議員	1 役員の選出について 2 令和2年度事業報告及び収支決 算の承認について
日本赤十字社 理 事 会	11月26日(金) (Web)	坂口理事	1 規則の改正について 2 本社業務執行体制の見直しにつ いて 3 令和3年度上半期事業報告につ いて
日本赤十字社 第99回代議員会	文書審議	坂口代議員、 中村代議員	1 役員の選出について 2 令和4年度事業計画について 3 令和4年度収支予算について

(4) 支部名誉職員名簿

(令和4年3月31日現在)

役 職	氏 名	備 考
支 部 長	三日月 大 造	滋賀県知事
副 支 部 長	江 島 宏 治	滋賀県副知事
〃	小 椋 正 清	滋賀県市長会長・東近江市長
〃	伊 藤 定 勉	滋賀県町村会長・豊郷町長
本 社 理 事	坂 口 康 一	近江鍛工株式会社代表取締役会長
本 社 代 議 員	坂 口 康 一	近江鍛工株式会社代表取締役会長
〃	中 村 美尾枝	赤十字奉仕団滋賀県支部委員会顧問
支部監査委員	漣 藤 寿	長浜市公平委員
〃	北 村 嘉 英	草津電機株式会社代表取締役会長
評 議 員	栗 田 克 俊	大 津 市 地 区 選 出
〃	竹 内 俊 彦	〃
〃	堀 井 和 美	〃
〃	和 田 裕 行	彦 根 市 地 区 選 出
〃	磯 谷 直 一	〃
〃	藤 井 勇 治	長 浜 市 地 区 選 出
〃	山 口 幸 代	〃
〃	小 西 理	近江八幡市地区 選出
〃	高 木 富砂子	〃
〃	橋 川 涉	草 津 市 地 区 選 出
〃	清 水 和 廣	〃
〃	山 岡 龍 二	守 山 市 地 区 選 出
〃	岸 年 江	〃
〃	野 村 昌 弘	栗 東 市 地 区 選 出
〃	芝 原 道 子	〃
〃	岩 永 裕 貴	甲 賀 市 地 区 選 出
〃	林 善 彦	〃
〃	栢 木 進	野 洲 市 地 区 選 出
〃	生 田 邦 夫	湖 南 市 地 区 選 出
〃	福 井 正 明	高 島 市 地 区 選 出
〃	小 椋 正 清	東 近 江 市 地 区 選 出
〃	大 塚 ふ さ	〃
〃	平 尾 道 雄	米 原 市 地 区 選 出
〃	西 田 秀 治	東 近 江 地 区 選 出
〃	有 村 国 知	湖 東 地 区 選 出
〃	野 瀬 喜久男	〃
〃	市 川 忠 稔	支部長 選出 滋賀県健康医療福祉部長
〃	田 附 弘 子	〃 赤十字奉仕団滋賀県支部委員会委員長
〃	田 中 滋 規	〃 滋賀県青少年赤十字指導者協議会長
〃	大 道 良 夫	〃 日本赤十字社滋賀県支部有功会長

(敬称略)

3 全国赤十字大会

名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席を賜り、毎年5月に東京都渋谷区の明治神宮会館において、来賓、赤十字社員の代表など約2,000人の出席のもと開催されている。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止になった。

4 会議の開催等

(1) 会議の開催

名 称	開 催 日	会 場	対象及び出席者数	内 容
赤十字事務担当主任者会議	4月23日(金)	滋賀県農業教育情報センター	日赤事務担当主任者	<ol style="list-style-type: none"> 1 赤十字のしくみと活動 2 新型コロナウイルス感染症への対応について 3 令和3年度事業計画及び歳入歳出予算の概要 4 地区・分区における業務について 5 その他
赤十字施設業務連絡会議	6月1日(火)	日本赤十字社 滋賀県支部 会議室	支部事務局長、施設事務部長(血液センターは事業部長)、及び支部総務課長等 計8人	<ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症への対応 2 本年度支部監査委員による本監査 3 職員研修 <ol style="list-style-type: none"> ①滋賀県支部主催研修 ②第4ブロック主催研修 ③本社主催研修 4 寄付金付自動販売機の設置及び寄付実績 5 令和3年度赤十字講習普及計画 6 今後の予定等 <ul style="list-style-type: none"> ・評議員会文書審議の実施 ・支部有功会総会の実施
赤十字施設業務連絡会議	12月7日(火)	日本赤十字社 滋賀県支部 会議室	支部事務局長、施設事務部長(血液センターは事業部長)、及び支部総務課長等 計8人	<ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症への対応 2 令和4年度滋賀県支部・赤十字施設の監査の実施 3 職員研修 <ol style="list-style-type: none"> ①滋賀県支部主催研修 ②第4ブロック主催研修 ③本社主催研修 ④その他 4 青少年赤十字創設100周年記念滋賀県青少年赤十字大会の開催 5 指定事業社資を活用した救護資機材整備計画 6 その他 <ol style="list-style-type: none"> ①寄付金付自動販売機の設置状況 ②全国赤十字大会への施設長等の参加 ③令和4年度災害救護訓練予定 7 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度評議員会

赤十字事務担当課長(幹事)会議	12月8日(水)	Web開催	担当課長等12人 事務局6人	1 令和3年度の主な取り組みについて 2 新型コロナウイルス感染症への対応について 3 令和3年度活動資金募集状況について 4 令和4年度会員及び赤十字活動資金の募集目標について 5 令和4年度主要事業計画(案)について 6 評議員の任期満了に伴う諸手続きについて 7 令和4年度赤十字奉仕団主要事業計画(案)について 8 赤十字奉仕団の役員の改選について
-----------------	----------	-------	-------------------	---

(2) 地区分区赤十字事務打ち合わせ会の実施

支部職員が地区分区を訪問し、赤十字活動にかかる情報共有を行うとともに、地区分区交付金の管理、救援物資の在庫状況等の確認を行った。

訪問日	地区分区	出席者数
10月21日(木)	近江八幡市	地区担当者 2人 支部職員 3人
	東近江地区	地区担当者 1人 支部職員 3人
11月2日(火)	日野町	地区担当者 1人 支部職員 2人
	竜王町	地区担当者 2人 支部職員 2人
11月5日(金)	守山市	地区担当者 1人 支部職員 2人
	草津市	地区担当者 2人 支部職員 2人
11月16日(火)	甲賀市	地区担当者 2人 支部職員 2人
	栗東市	地区担当者 3人 支部職員 2人
11月18日(木)	彦根市	地区担当者 2人 支部職員 2人
	湖東地区	地区担当者 2人 支部職員 2人

5 会員増強運動の推進と実績

(1) 会員増強運動の推進

5月を「赤十字会員増強運動月間」として、ひとりでも多くの方々に赤十字の思想・活動を理解していただくとともに、赤十字会員への加入、高額活動資金や法人活動資金の拡充強化に努めた。

本年度会員増強運動に使用した資料は次のとおりである。

ア 赤十字会員増強運動実施要綱	100部
イ 小冊子（リーフレット）	6,000部
ウ ポスター	2,870部
エ 赤十字活動チラシ	514,000部
オ 赤十字会員募集のてびき	3,800部
カ 広報用DVD	25部
キ 活動資金領収書	172,000部
ク 法人に対する活動資金協力依頼状	17,000部
ケ 個人情報の取扱いに関する啓発パンフレット	1,300部
コ 法人向けチラシ①	7,000部
サ 法人向けチラシ②	6,500部

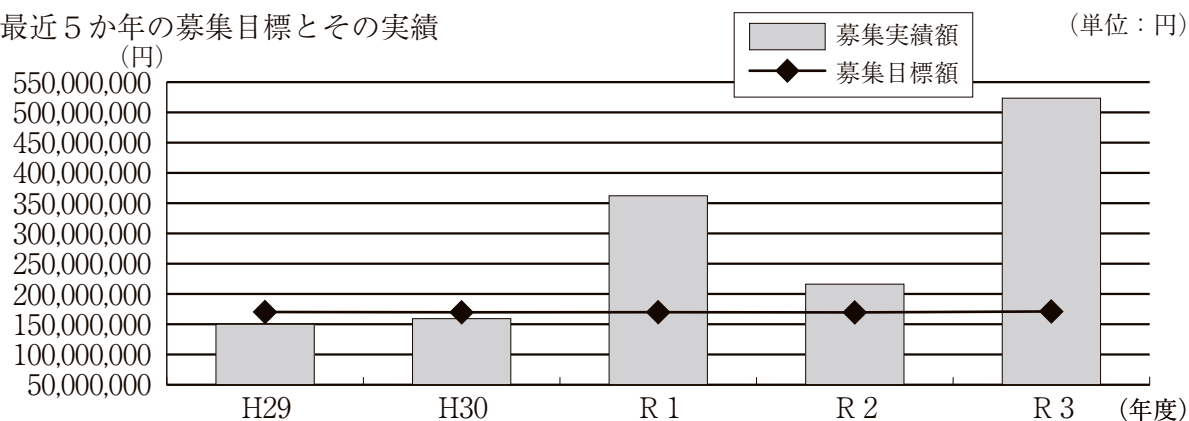
(2) 令和3年度活動資金募集実績

各市町の標準世帯数の40%以上を「500円会員」、28%以上を「1,000円会員」として募集することを目標とし、県民の支援と協力を依頼したところ県民各位や法人各社と地区分区の協力により、別表のような実績を上げた。

令和3年度活動資金募集実績

地区区分名		募集目標額 (A) (円)	地区区分・ 支部収納額 (B) (円)	支部による募集実績額内訳			収納額合計 F=B+C+D+E (円)	達成率 F / A (%)		
				個人DM (C) (円)	口座振替 (D) (円)	クレジットカード (E) (円)				
地区 分 区	市 地 区	大 津 市	33,888,000	10,929,420	7,099,801	972,000	1,728,333	20,729,554	61.2%	
		彦 根 市	10,577,000	4,987,696	1,136,500	209,000	145,800	6,478,996	61.3%	
		長 浜 市	14,756,500	8,405,522	1,445,916	243,000	100,000	10,194,438	69.1%	
		近江八幡市	10,042,000	6,224,122	679,500	266,000	104,000	7,273,622	72.4%	
		草 津 市	6,691,000	4,899,452	2,702,973	413,000	1,391,000	9,406,425	140.6%	
		守 山 市	8,707,000	7,063,997	1,042,703	36,000	60,000	8,202,700	94.2%	
		栗 東 市	6,799,000	3,809,592	798,000	168,000	160,000	4,935,592	72.6%	
		甲 賀 市	12,104,500	9,284,394	399,330	44,000	24,000	9,751,724	80.6%	
		野 洲 市	5,840,500	4,286,153	582,000	70,000	92,000	5,030,153	86.1%	
		湖 南 市	5,959,000	3,626,937	494,000	51,000	69,000	4,240,937	71.2%	
		高 島 市	6,742,500	4,454,488	305,222	14,000	52,000	4,825,710	71.6%	
		東 近 江 市	14,410,500	13,320,400	732,000	119,000	116,000	14,287,400	99.1%	
		米 原 市	5,614,500	5,827,400	600,952	58,000	2,000	6,488,352	115.6%	
		市地区計	142,132,000	87,119,573	18,018,897	2,663,000	4,044,133	111,845,603	78.7%	
地区 分 区	郡 地 区	東 近 江	日野町	2,797,500	2,564,842	73,000	0	55,000	2,692,842	96.3%
		竜王町	1,760,500	1,056,500	38,000	10,000	0	1,104,500	62.7%	
		東近江計	4,558,000	3,621,342	111,000	10,000	55,000	3,797,342	83.3%	
		愛 荘 町	2,489,000	2,364,282	103,000	16,000	14,000	2,497,282	100.3%	
		湖	豊郷町	951,500	923,854	400,000	48,000	0	1,371,854	144.2%
		甲良町	1,093,500	987,000	21,000	0	0	1,008,000	92.2%	
		東	多賀町	1,164,000	1,088,400	114,000	0	0	1,202,400	103.3%
		湖東計	5,698,000	5,363,536	638,000	64,000	14,000	6,079,536	106.7%	
郡地区計	10,256,000	8,984,878	749,000	74,000	69,000	9,876,878	96.3%			
地区区分計		152,388,000	96,104,451	18,767,897	2,737,000	4,113,133	121,722,481	79.9%		
支 部		18,816,000	401,637,152	160,500	0	0	401,797,652	2,135.4%		
支部・地区区分計		171,204,000	497,741,603	18,928,397	2,737,000	4,113,133	523,520,133	308.3%		
個人住民税寄付金 控除対象救援金		-	29,172	-	-	-	29,172	-		
病 院 使 途 指 定 寄 付 金		0	10,000,000	-	-	-	10,000,000	-		
合 計		171,204,000	507,770,775	18,928,397	2,737,000	4,113,133	533,549,305	311.6%		

最近5か年の募集目標とその実績



凡例	年度	H29	H30	R1	R2	R3
◆	募集目標額	170,310,000	169,833,000	169,988,000	169,634,000	171,204,000
	(うち口座振替目標額)	(3,125,000)	(3,152,000)	(2,654,000)	(2,637,000)	(2,593,000)
	(うちクレジット目標額)	(1,185,000)	(681,000)	(1,920,284)	(997,000)	(2,611,000)
■	募集実績額	149,879,044	159,183,313	362,227,461	216,238,531	523,520,133

(上記募集実績額は管内赤十字病院等への用途指定寄付金及び個人住民税寄付金控除対象救援金を除く)

(3) 個人向けダイレクトメールによる活動資金募集実績

過去に支部へ活動資金の協力があった個人をはじめ、本社から提供のあった義援金・救援金・海外たすけあい協力者を対象にダイレクトメールによる活動資金募集を行った。

	送付件数	応諾数	応諾率	協力金額
11月発送	7,490件	960件	12.8%	18,928,397円

(4) 法人活動資金募集の実績

ア 法人活動資金の実績

	予算額	実績額
指定寄付金	4,700,000円	4,693,399円
損金算入限度額特例扱寄付金	9,300,000円	30,995,660円
合計	14,000,000円	35,689,059円

※指定寄付金として募集した額は、救護資機材等の整備費に充当した。

イ ダイレクトメール (DM) による募集

年2回(7月・11月) 発送のダイレクトメールにより、法人に対して活動資金の募集を行った。

	発送数	応諾数	応諾率	協力金額
7月 発送分	6,718件	431件	6.4%	11,181,702円
11月 発送分	6,314件	124件	2.0%	3,029,945円
合計	13,032件	555件	4.3%	14,211,647円

【発送条件】

7月発送分：支部保有法人データ全件

帝国データバンクから購入した売上高5千万円以上の法人

11月発送分：7月にDMを発送した法人のうち、未応諾の法人

ウ 訪問による募集

支部職員、地区分区事務職員、奉仕団員が法人を訪問し、活動資金の募集を行った。

	訪問数	応諾数	応諾率	協力金額
17 地区分区	1,837件	1,434件	78.10%	6,977,071円

エ 法人会員向けステッカーの作成・配布

日本赤十字社を支援していただいている事実を表すために、法人会員向けステッカーを作成し、活動資金として2,000円以上のご寄付があった法人を対象に配布した。

(5) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進

ア 募金箱による協力

設置数 17か所

金額 112,120円

イ 寄付金つき自動販売機による協力

設置数 25か所

金額 1,582,660円

ウ 赤十字支援マークの使用

4法人

エ 経済団体主催イベントへの動画出展

滋賀県中小企業団体中央会、滋賀県中小企業青年中央会が主催する、お仕事体験・学習オンラインイベント「しがわーくランド2021」へ後援参加し、献血推進動画「おしえて！けんけつちゃん」を出展した。

(6) 赤十字会員数

会員数（年額2,000円以上協力者）

	会員数	増減（前年度比）
個人（人）	4,750	153
法人（法人）	2,307	-47
合計（人・法人）	7,057	106

（令和4年3月31日現在）

(7) 有功章等受章者数

（単位：人）

	個人	法人	合計
紺綬褒章	2	0	2
厚生労働大臣感謝状	7	1	8
社長感謝状	14	12	26
金色有功章	7	6	13
銀色有功章	11	15	26
支部長表彰状	6	9	15
特別社員章	229	0	229

（令和4年3月31日現在）

6 災害救護活動

日本赤十字社は、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられ、また、災害救助法により国及び都道府県に対する救助への協力義務が規定されている。

滋賀県支部は、滋賀県と「災害救助法による救助等に関する委託契約書」を締結しており、避難所での生活環境の整備及び被災者に対するこころのケア、医療、助産及び死体の処理に関する事項を実施することとなっている。

令和3年度は、コロナ禍により各種訓練が中止となったが、有事に円滑に対応できるように防災関連の諸会議に参加して関係機関との関係を強化し、赤十字医療施設が実施する研修に講師を派遣するなどして救護班要員の能力向上に努めるとともに、救護資機材を整備して対応能力の強化を図った。

(1) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況

地震、火災、風水害などの自然災害、人為災害時に全壊、全焼、流出の世帯に対し、支部備蓄の救援物資の配布や死亡者に対して弔慰金を配分する。

令和3年度は次のとおり救援物資及び弔慰金の配分を行った。

ア 災害救援物資

物資名	数量	物資名	数量
毛布	62枚	大判タオル	48本
緊急セット	25個	タオル	32本

イ 弔慰金

8件：死者8人、配分額 80,000円

(2) 義援金、海外救援金の受付状況

期間/平成30年7月～令和4年3月

名称	件数	金額(円)	送金先
平成30年7月豪雨災害義援金	663件	46,181,886	日本赤十字社本社

期間/令和2年7月～令和4年3月

名称	件数	金額(円)	送金先
令和2年7月豪雨災害義援金	340件	26,938,714	日本赤十字社本社

期間/令和3年2月～令和3年5月

名称	件数	金額(円)	送金先
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	74件	1,048,720	日本赤十字社本社

期間/令和3年4月～令和3年5月

名称	件数	金額(円)	送金先
令和3年島根県松江市大規模火災義援金	49件	652,551	日本赤十字社本社

期間/令和3年7月～令和3年12月

名 称	件数	金額 (円)	送 金 先
令和3年7月大雨災害義援金	86件	1,085,093	日本赤十字社本社

期間/令和3年8月～令和3年12月

名 称	件数	金額 (円)	送 金 先
令和3年台風第9号等大雨災害義援金	65件	645,196	日本赤十字社本社

期間/令和3年8月～令和3年11月

名 称	件数	金額 (円)	送 金 先
2021年ハイチ地震救援金	46件	409,738	日本赤十字社本社

期間/令和3年8月～令和4年3月

名 称	件数	金額 (円)	送 金 先
令和3年8月大雨災害義援金	83件	1,472,061	日本赤十字社本社

期間/令和3年9月～令和4年3月

名 称	件数	金額 (円)	送 金 先
令和3年長野県茅野市土石流災害義援金	63件	564,280	日本赤十字社本社
アフガニスタン人道危機救援金	47件	409,522	日本赤十字社本社

期間/令和4年1月～令和4年3月

名 称	件数	金額 (円)	送 金 先
トンガ大洋州噴火津波救援金	52件	526,368	日本赤十字社本社

期間/令和4年3月

名 称	件数	金額 (円)	送 金 先
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	1件	10,000	日本赤十字社本社
ウクライナ人道危機救援金	107件	6,141,357	日本赤十字社本社

期間/令和3年4月～令和4年3月

名 称	件数	金額 (円)	送 金 先
海外救援金(無指定)	3件	15,311	日本赤十字社本社

(3) 救護資機材の整備

災害対応能力強化のための資機材として、県内医療施設に非接触型体温計、パルスオキシメーター、非常食、トイレセット、エアストレッチャー等を整備した。

また、医療セット（薬品セット）の維持管理にかかる薬品を補充した。

(4) 研修

ア 救護班 1 日研修（5 月 29 日）

救護班の役割を知ることにより支部災害対策本部要員として救護班の総合調整に資するように、また、救護班要員として派遣できるように支部職員 1 人を長浜赤十字病院が主催する救護班 1 日研修に参加させた。

イ 救護員としての赤十字看護師研修（合同災害救護演習）

実施日 11 月 4 日

場 所 大津赤十字病院

参加者 大津・大津志賀各赤十字病院の看護師 28 人

指導者 支部及び大津・大津志賀各赤十字病院職員スタッフ 8 人

ウ こころのケア指導者養成研修（令和 4 年 2 月 11 日～13 日）

災害時におけるこころのケア活動は、救護活動における重要な柱のひとつであり、その要員を養成する「こころケア研修」の指導者を養成することを目的として、本社では「こころのケア指導者養成研修」を実施している。令和 3 年度は、長浜赤十字病院から 1 人が参加した。

エ こころのケア研修

被災者及び救援者である救護員へのこころのケアの重要性について理解を深めるとともに、救護員自身のこころのケアに関する対処方法を取得することを目的として実施した。

	大津赤十字病院	長浜赤十字病院
実 施 日	6 月 23 日、28 日	7 月 31 日
修了者人数	32 人	25 人
指導スタッフ	5 人	8 人

オ 研修会への講師の派遣

職員の災害対応能力向上のため赤十字医療施設が実施する「救護班要員基礎研修会」（大津赤十字病院）や「救護員としての赤十字看護師研修」（大津赤十字病院）に支部職員を講師として派遣した。

(5) 救護員の登録状況

常備救護班は医師を班長として 1 人、看護師長 1 人、看護師 2 人、主事 1 人、自動車操作要員 1 人の計 6 人をもって 1 班とし、大津赤十字病院に 4 個班、大津赤十字志賀病院に 1 個班、長浜赤十字病院に 3 個班を常備編成している。

(6) 救護資材整備状況及び救援物資備蓄状況

ア 救護資機材整備状況

品名	保有数	品名	保有数
災害救援車	2	業務用無線基地局	2
災害用通信指令車	2	車載型業務用無線機	15
救護所用大型テント	2	携帯型業務用無線機	25
救護所用テント空調装置	2	車載型衛星電話	1
天幕(3.6m×5.4m)	6	衛星携帯電話	3
エアーテント(大・小)	2	病院前除染設備一式	2
ワンタッチテント	7	医療セット一式	8
担架	24	移動式炊飯器	2
担架架台	5	救護員用雨具	60
折り畳み寝台	31	救護員用防寒具	60
発電機	4	救護員用寝袋	18

イ 災害救援物資の備蓄状況

品名	保有数	品名	保有数
毛布	9,512	大判タオル	546
緊急セット	1,127	タオル	462
安眠セット	367	タオルケット	1,199

7 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及

(1) 救急法

日常生活などで不慮の事故にあった際、医師などに引き渡すまでの応急手当や救命手当を赤十字奉仕団、学校、企業等を対象に実施した。

区分	実施回数(回)	受講人数(人)
一般普及講習(基礎講習)	26	354
一般普及講習(救急員養成)	2	57
短期講習	97	2,672

(2) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすための健康維持・増進の思想と、高齢者の自立をめざした介護の方法を指導するもので、赤十字奉仕団、一般住民を対象に行った。

区分	実施回数(回)	受講人数(人)
短期講習	3	253

(3) 幼児安全法

子どもを社会の財産として大切に育てるため、子どもに起こりやすい事故に対する応急手当の方法と事故防止、家庭内での看病の方法を中心として子育て支援関係者、保育園・幼稚園の職員、福祉施設の職員等を対象に行った。

区 分	実施回数 (回)	受講人数 (人)
短期講習	10	199

(4) 水上安全法

安全に水と親しむための、事故防止や泳ぎの基本と自己保全、水の事故に遭った際の救助や手当の方法などの知識と技術を習得するもので、学校関係職員を対象に実施した。

区 分	実施回数 (回)	受講人数 (人)
短期講習	5	106

(5) 講習指導員の研修

JRC蘇生ガイドライン2020の内容の確認と講習教本の改訂にともなう必要事項の伝達を目的として、滋賀県支部に所属する救急法、水上安全法、幼児安全法の各指導員に対し指導員研修を実施した。

対 象 指 導 員	実施回数 (回)	受講人数 (人)
救急法・水上安全法・幼児安全法	10	165
幼 児 安 全 法	4	39

(6) 各種講習指導員数

講習種別	ボランティア (人)	職 員 (人)	総 数 (人)
救 急 法	109	62	171
水 上 安 全 法	23	1	24
健康生活支援講習	13	21	34
幼 児 安 全 法	16	28	44

(7) 防災教育の普及

近年の防災・減災に対する関心の高まりをうけ、地震や風水害などの自然災害に対しての正しい知識や災害時の備えなどを学ぶ防災教育を、学校、地域、赤十字奉仕団等に対して実施した。

対 象	実施回数 (回)	受講者数 (人)
自 治 会 等	3	89
赤 十 字 奉 仕 団	10	637
学 校 関 係	5	236
企 業	1	29
そ の 他	2	67
合 計	21	1,058

(8) 滋賀県安全法指導員協議会

救急法・水上安全法の指導員資格を有する者をもって会員とし、講習普及や人命尊重と苦痛の軽減に寄与することを目的に結成されており、支部の講習計画に基づき、県内の講習普及に努めている。

会員数は、救急法171人、水上安全法24人の計195人（重複者8人）

名称	期日等	出席者（人）	内容
第1回役員会	5月27日	8	【報告事項】 1 令和2年度事業報告ならびに収支決算 2 令和2年度講習実施状況について 【協議事項】 1 令和3年度事業計画（案）ならびに収支予算（案）
定期総会	書面審議	—	1 令和2年度事業報告ならびに収支決算 2 令和3年度事業計画（案）ならびに収支予算（案）
第2回役員会	12月14日	8	【報告事項】 1 令和3年度事業実施状況について 【協議事項】 1 令和4年度事業計画（案）について

8 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、市町の地域毎につくられる地域奉仕団と社会人や学生などによって組織された青年奉仕団、また特殊技能者が集まった特殊奉仕団がある。

赤十字奉仕団は、赤十字思想の普及や災害救護など、赤十字事業の推進にあたりとともに、地域の状況に応じた福祉活動など幅広い活動を展開している。

(1) 設団状況

ア 地域奉仕団

地域別	団数（団）	分団または班数 （団または班）	団員数（人）		
			男	女	計
市	43	583	831	11,523	12,354
町	7	82	111	1,456	1,567
計	50	665	942	12,979	13,921

イ 青年奉仕団

名 称	団員数（人）		
	男	女	計
滋賀県青年赤十字奉仕団はなまる	2	3	5
大津赤十字看護専門学校学生奉仕団めだか	10	85	95
計	12	88	100

ウ 特殊奉仕団

名 称	団 員 数 (人)		
	男	女	計
滋賀県無線赤十字奉仕団	13	2	15
滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団	57	18	75
滋賀県防災支援赤十字奉仕団	27	14	41
計	97	34	131

(2) 地域赤十字奉仕団の活動

ア 赤十字奉仕団滋賀県支部委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
1月21日	県支部委員16人 指導講師 5人	文書審議	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度事業の実施状況および決算見込みについて 2 令和4年度事業計画(案)および予算(案)について 3 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用した奉仕団の情報発信について ・重点目標交付金交付奉仕団(近江八幡市・長浜市湖北赤十字奉仕団)の本社ホームページへの掲載記事の紹介 ・青少年赤十字創設100周年滋賀県青少年赤十字大会について

イ 赤十字奉仕団滋賀県支部常任委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
6月2日	常任委員8人 指導講師4人	滋賀県支部 会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度赤十字奉仕団委員長会議・研修会の振り返り 2 令和3年度赤十字奉仕団副委員長研修会について 3 令和3年度赤十字奉仕団中央委員会の報告について 4 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスワクチン接種ボランティアについて ・各奉仕団の役員選出方法について
8月10日	常任委員8人 指導講師5人	文書審議	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度赤十字奉仕団副委員長研修会の振り返り 2 令和3年度赤十字奉仕団男性団員研修会について 3 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・各奉仕団の役員改選方法について

12月10日	常任委員 7人 指導講師 4人	滋賀県支部 会議室	1 令和4年度の奉仕団研修旅行について 2 令和3年度事業の実施状況について 3 令和4年度事業計画（案）について
3月16日	常任委員 8人 指導講師 3人	滋賀県支部 会議室	1 令和4年度基本目標について 2 令和4年度赤十字奉仕団委員長会議・研修会について 3 赤十字奉仕団幹旋物資について 4 報告事項 ・奉仕団広報誌の配布について ・近江八幡市安土赤十字奉仕団第一分団の取り組みについて

ウ 赤十字奉仕団委員長会議・研修会

開催日	参加者数	会 場	内 容
4月20日	奉仕団委員長 48人 指導講師 4人	コラボしが21	1 基本目標と奉仕団活動 2 「地域赤十字奉仕団組織強化の基本計画」について 3 重点目標事業活動報告 (1) 長浜市湖北赤十字奉仕団 (2) 近江八幡市赤十字奉仕団 4 奉仕団関係事務の取扱いについて 5 全体討議 テーマ：「委員長として気になること・困っていること」

エ 赤十字奉仕団副委員長研修会

開催日	参加者数	会 場	内 容
7月21日	奉仕団副委員長 44人 常任委員 8人 指導講師 5人	コラボしが21	1 赤十字と基本目標について 2 「地域赤十字奉仕団組織強化の基本計画」について 3 副委員長に期待すること 4 全体討議 テーマ：「副委員長としてなすべきこと」

オ 赤十字奉仕団中央委員会

開催日	出席者	会 場	内 容
5月28日	県支部委員長	Web会議	1 中央委員会常任委員改選 2 感染予防に留意したボランティア活動について<活動紹介> 3 今後のボランティア活動について<意見交換会> 4 今後のボランティア活動について<全体共有>

カ 赤十字奉仕団中央委員会常任委員会

開催日	出席者	会場	内 容
1月17日	県支部委員長	Web会議	1 欠員について 2 令和4年度赤十字奉仕団中央委員会 日程及び協議事項について

キ 赤十字奉仕団一日研修会

奉仕団員の意識を高揚し、真の奉仕者組織としての健全な奉仕団の育成を期するため、今年度も15郡市地区が、それぞれの主催で一日研修会を開催し、団活動についての講演、DVD上映、事例発表等を行った。

地区別	開催日	人数(人)	地区別	開催日	人数(人)
大津市	10月19日	77	彦根市	11月10日	70
長浜市	11月10日	128	近江八幡市	3月21日	180
草津市	12月3日	53	守山市	4月23日	109
栗東市	11月10日	42	甲賀市	10月22日	131
野洲市	11月6日	45	湖南市	10月20日	32
高島市	10月27日	180	東近江市	11月25日	201
米原市	10月20日	44	東近江	11月11日	41
湖東	11月12日	74			

ク 赤十字奉仕団広報紙の発行

発行日	発行号	発行部数(部)
11月20日	第62号	18,500
3月30日	第63号	18,300

コ 重点目標事業の推進

赤十字奉仕団重点目標に関連した奉仕団活動の活性化を図るため、2団を対象奉仕団として指定し、助成を行った。

実施期間	奉仕団名	交付額(円)
令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	長浜市湖北	25,000
	近江八幡市	25,000
合 計		50,000

サ 地域赤十字奉仕団特設サイトの開設

広く県民に奉仕団活動を知っていただく機会とするとともに、奉仕団への入団促進や、取組み事例の共有による活動の活性化を図ることを目的として「地域赤十字奉仕団特設サイト」を開設し、各団の特色ある取組みを紹介する記事を中心に掲載した。

(3) 青年赤十字奉仕団の活動

事業名	開催日	参加人員 (人)	場所
第1回滋賀県赤十字奉仕団研修会	4月17日	2	滋賀県赤十字血液センター
第1回連絡協議会	5月11日	6	滋賀県支部
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 代表者会議 (Web会議)	5月16日	1	滋賀県支部
第2回滋賀県赤十字奉仕団研修会	8月1日	11	滋賀県立男女共同参画センター G-NETしが
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 第1回役員会 (Web会議)	9月25日	1	参加者自宅
第2回連絡協議会 (Web会議)	10月21日	5	滋賀県支部、参加者自宅
第3回滋賀県赤十字奉仕団研修会	11月7日	3	草津市立市民総合交流センター
第4ブロック青年赤十字奉仕団 リーダー養成研修会 (オンライン研修)	11月27日	7	滋賀県支部、参加者自宅
第4ブロック青年赤十字奉仕団 合同防災学習 (オンライン研修)	12月4日	1	参加者自宅
海外たすけあい街頭募金活動	12月19日	8	石山駅
「はたちの献血」キャンペーン	1月9日	4	ピエリ守山
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 第2回役員会 (Web会議)	2月5日	1	参加者自宅
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 第3回役員会 (Web会議)	3月5日	1	参加者自宅

(4) 滋賀県無線赤十字奉仕団・滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動

令和3年度においては、防災学習の指導、研修会への参加など活動を展開した。主な活動は下表のとおり。

事業名	開催日	参加人員 (人)	場所
滋賀県無線赤十字奉仕団	4月8日	5	滋賀県支部会議室
赤十字無線救護奉仕団第4ブロック連 絡協議会役員会	4月10日	1	大阪府支部会議室
滋賀県防災支援赤十字奉仕団定期総会	4月17日	17	滋賀県赤十字血液センター
第1回赤十字奉仕団研修会	4月17日	19	滋賀県赤十字血液センター
東近江市湖東赤十字奉仕団防災学習	5月15日	5	湖東コミュニティーセンター
滋賀県総合保健専門学校防災学習	5月20日	4	滋賀県総合保健専門学校
東近江市能登川赤十字奉仕団防災学習	6月1日	4	やわらぎの郷公園多目的広場

滋賀県立八幡高等学校防災学習	7月6日	7	滋賀県立八幡高等学校
近江八幡市社会福祉協議会防災学習	7月10日	2	金田コミュニティーセンター
草津市矢倉学区子ども会防災学習	7月11日	5	矢倉町会館
高島市高島児童民生委員防災学習	7月16日	1	高島市アイリッシュパーク
第2回赤十字奉仕団研修会	8月1日	20	G-NETしが
草津市赤十字奉仕団老上西分団防災学習	8月3日	4	老上西まちづくりセンター
本社防災教育事業指導者養成研修	8月21日 ・22日	1	滋賀県支部会議室 (Web)
滋賀県中小企業青年中央会防災学習	9月25日	1	草津エストピアホテル
本社防災教育事業指導者養成研修	9月28日 ・29日	1	滋賀県支部会議室 (Web)
東近江市能登川赤十字奉仕団防災学習	10月20日	2	やわらぎの郷公園多目的広場
赤十字奉仕団野洲市地区委員会防災学習	11月6日	3	野洲市防災センター
第3回赤十字奉仕団研修会	11月7日	19	キラリエ草津
日赤東近江地区防災学習	11月11日	2	竜王公民館
日赤湖東地区防災学習	11月12日	1	ハーティーセンター秦荘
甲賀市立甲南第三小学校防災学習	11月13日	7	甲賀市立甲南第三小学校
守山市速野学区社会福祉協議会	11月17日	2	速野会館
東近江市地区防災学習	11月25日	1	能登川コミュニティーセンター
近江八幡市赤十字奉仕団北里分団防災学習	11月27日	1	北里コミュニティーセンター
甲良町立甲良東小学校防災学習	12月9日	2	甲良町立甲良東小学校
大津市社会福祉協議会防災学習	12月11日	3	明日都浜大津
近江八幡市赤十字奉仕団八幡分団防災学習	12月15日	1	八幡コミュニティーセンター
第4ブロック災害救護訓練打ち合わせ	12月16日	1	滋賀県支部会議室
本社防災ボランティア・リーダー養成研修会	2月5日	1	滋賀県支部会議室 (Web)
第4ブロック災害救護訓練打ち合わせ	2月24日	1	滋賀県支部会議室
甲良町立甲良中学校防災学習	3月9日	3	甲良中学校体育館

※上記のほか、防災支援奉仕団の役員会をWEB会議で10回開催。

(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動

ア 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団役員会（書面審議）

開催日	参加者数	会場	内容
10月1日			【協議事項】 令和2年度事業報告並びに収支決算について 令和3年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団規約の改正について 役員改選について 【報告事項】 令和2年度及び令和3年度における入団者及び退団者等の数について 滋賀県青少年赤十字指導者協議会関係の報告について

イ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団総会（書面審議）

開催日	参加者数	会場	内容
11月1日			【協議事項】 令和2年度事業報告並びに収支決算について 令和3年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団規約の改正について 役員改選について 【報告事項】 令和2年度及び令和3年度における入団者及び退団者等の数について 滋賀県青少年赤十字指導者協議会関係の報告について

ウ その他の会議、行事参加

開催日	出席者数	会場	内容
11月19日	1人	甲賀市立甲南第三小学校	JRC研究推進委嘱校研究発表会への参加

エ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団広報紙「JRC賛助奉仕団しが」の発行

開催日	号数	部数（部）	内容
9月30日	第35号	400	令和3年度滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団事業計画、滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会案内等

(6) 個人ボランティア

赤十字事業の推進を目的として、赤十字病院、血液センターなど県内の赤十字施設において、直接その事業に奉仕するボランティアとして、昭和53年4月から登録されている。

施設名	人数	活動内容
大津赤十字病院	47人	総合案内のお手伝いや図書の貸出し、衛生材料の整理、コンサート開催など
大津赤十字志賀病院	22人	音楽会、お誕生日会の開催、お話相手、園芸など
長浜赤十字病院	65人	外来者の受付や案内、入浴介助など
滋賀県赤十字血液センター	100人	献血者への文書発送手伝いなど

9 青少年赤十字

青少年のうちから赤十字の精神を養い、世界各国の青少年と手を結んで健康と安全の増進、国際親善などの行いによって青少年の健全育成を図るため、小・中・高等学校の児童、生徒を対象として学校内で組織されたものが青少年赤十字である。現在世界の赤十字加盟は192カ国で、その多くの加盟国で青少年赤十字が取り入れられている。

(1) 加盟校の状況

区 分	校 種 別	令和3年度	前年度比
園、学校数	幼稚園等	10	0
	小学校	150	0
	中学校	43	1
	義務教育学校	2	0
	高等学校	16	1
	特別支援	1	0
	総 数	222	2
学級または グループ数	幼稚園等	63	1
	小学校	2,051	△22
	中学校	581	△30
	義務教育学校	10	△2
	高等学校	148	△20
	特別支援	77	23
	総 数	2,930	50
児童・生徒数 (人)	幼稚園等	1,392	△11
	小学校	46,951	△1,194
	中学校	16,940	△950
	義務教育学校	164	30
	高等学校	4,460	△1,496
	特別支援	368	1
	総 数	70,275	△3,620

(2) 青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催

開催日	会 場	出席者数 (対象者)	協 議 事 項
6月18日	甲賀市まちづくり活動センター「まるーむ」	12人	【報告事項】 1 令和2年度青少年赤十字事業報告について 【協議事項】 1 令和3年度青少年赤十字事業計画（案）について 2 役員改選（案）について
10月29日	滋賀県支部会議室 (Web併用)	11人	【協議事項】 1 青少年赤十字創設100周年記念事業について (1) 滋賀県青少年赤十字大会への参加依頼について (2) 青少年赤十字活動実践事例集の作成及び執筆依頼について
3月7日	滋賀県支部会議室 (Web併用)	13人	【協議事項】 1 令和4年度青少年赤十字主要行計画（案）について 2 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターについて 3 青少年赤十字創設100周年記念事業について

(3) 本社及びブロック主催の講習会、研修会開催状況

区 分	主 催	開催日	開催場所	参加者
リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会	日本赤十字社 本社	6月5日	Web	県内参加者1人 (全参加者103人)
指導主事対象青少年赤十字研究会	日本赤十字社 本社	9月30日	Web	県内参加者1人 指導スタッフ1人 (全参加者82人)

(4) 支部主催のトレーニングセンター開催状況

区 分	開催日	開催場所	参加者
メンバー・トレーニングセンター指導者事前打ち合わせ会	7月8日	守山市立守山小学校	会長、指導部長、県指導員 2人

※トレーニングセンターは新型コロナウイルス感染症の拡大により中止した。

(5) その他の会議・行事等

区 分	開催日	会 場	出席者数	備 考
指導部役員会	5月7日	滋賀県支部 会議室	10人	<ul style="list-style-type: none"> • 令和2年度事業報告 • 令和3年度事業計画（案） • 滋賀県青少年赤十字指導者研修会について • 滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターについて

滋賀県青少年赤十字指導者協議会第73回定期総会	6月18日	甲賀市まちづくり活動センター「まるーむ」	31人	<ul style="list-style-type: none"> • 加盟校表彰 • 令和2年度事業報告 • 令和3年度事業計画(案) • 役員改選について • 講演 「新型コロナウイルスと赤十字」 滋賀県赤十字奉仕団支部指導講師 奥嶋 勇 氏
滋賀県青少年赤十字指導者研修会	6月24日	守山市立守山小学校	63人	<ul style="list-style-type: none"> • 令和元・2年度滋賀県青少年赤十字研究推進委職校東近江市立市原小学校の取り組み 東近江市立市原小学校 西村 久嗣 氏 • コロナ禍でも可能なレクリエーション 滋賀県レクリエーション協会 寺村 義伸 氏
青少年赤十字全国指導者協議会・総会	6月29日	滋賀県支部会議室(Web)	1人 (会長)	<ul style="list-style-type: none"> • 役員改選 • 報告事項 「コロナ禍における青少年赤十字の取り組みと今後の課題」 日本赤十字社青少年・ボランティア課長 藤枝 大輔 氏 「青少年赤十字活動報告」 青少年赤十字全国指導者協議会会長 田中 滋規 氏 • グループディスカッション 「青少年赤十字創設100周年に向けて」
滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校活動紹介及び青少年赤十字指導者研修会	11月19日	甲賀市立甲南第三小学校	62人	<ul style="list-style-type: none"> • 令和2・3年度の滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱を受けた同校による2年間の研究成果を発表した。当日は学校関係者及び赤十字奉仕団員が出席した。
指導部役員会	12月21日	滋賀県支部会議室	8人	<ul style="list-style-type: none"> • 令和3年度青少年赤十字主要事業報告 • 令和4年度主要事業計画(案) • 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクトについて • 滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターについて • JRCしが第28号の編集について • 滋賀県青少年赤十字創設100周年記念事業について

青少年赤十字創設100周年直前令和3年度青少年赤十字スタディー・プログラム	12月25日～26日	滋賀県支部会議室(Web)	2人	全国の中高生メンバーがオンライン上に集まり、グループディスカッションやフィールドワークを通じて交流を図った。
---------------------------------------	------------	---------------	----	--

(6) 青少年赤十字全国指導者協議会会長の就任

守山市立守山小学校長であり、滋賀県青少年赤十字指導者協議会会長の田中滋規先生が令和2年4月1日から2年を任期として、青少年赤十字全国指導者協議会会長に就任されていたが、令和4年4月1日から令和6年3月31日まで引き続き就任されることが6月29日に開催された令和3年度青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会において決定した。

(7) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業

青少年赤十字加盟校が行う自主的かつ意欲的な実践活動を支援し、その活動成果を広く普及することにより、青少年赤十字活動の一層の振興を図ることをねらいに実施し、下記のとおり助成を行った。

- 一般枠

区 分	件 数	助 成 額
幼 稚 園	1 件	10,000円
小 学 校	6 件	160,000円
合 計	7 件	170,000円

(8) 青少年赤十字機関紙「JRCしが」の発行

滋賀県内の青少年赤十字活動を広く周知するため、JRCしが(No.27)を4月1日に発行し、県内の全小中高等学校等に配布して普及に努めた。

10 看護師の教育

赤十字看護師の教育は、明治29(1896)年からの長い歴史と伝統を誇る重要な事業の一つであり、災害救護業務の要員を確保するとともに、医療施設の要員充足をはかり、併せて看護師不足に対応すべく優秀な看護師を社会に送り出すことを目的としている。

大津赤十字看護専門学校は大津市小関町に設置され、1学年養成定員を40人とし、本年度は下記のとおり養成した。

令和3年度の養成人員				計	令和3年度迄の養成人員
1年	2年	3年			
34人	24人	37人	95人		3,326人

11 国際活動

(1) 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施

令和3年12月1日から25日の間、令和3年度「NHK 海外たすけあい」キャンペーンを本社・支部・赤十字病院・血液センター、NHK各放送局、全国の郵便局、各金融機関等の協力を得て実施した。また、12月1日（水）に滋賀県共同募金会と支部職員がJR大津駅前広場にて「NHK 歳末・海外たすけあい」街頭募金活動を行った。

本キャンペーンの募金額は下記のとおりで、この資金をもとに、日本赤十字社が世界各地の紛争や自然災害、病気で苦しむ人々への支援のための国際救援事業や開発協力事業を行った。

実績内訳

区 分		件 数 (件)	金 額 (円)
滋賀県	支部・施設等窓口扱い分	1,021	1,940,333
	本社扱い分	278	2,908,438
	合 計	1,308	4,848,771
全 国	支部・施設等窓口扱い分	40,213	104,854,744
	本社扱い分	43,166	616,027,450
	合 計	83,379	720,882,194

12 赤十字思想の普及

赤十字の理念や赤十字の活動について県民の理解を深め、一層の協力を得るため、5月の運動月間を始め、年間を通じて広報活動を展開した。

(1) 本社作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動紹介用リーフレット	赤十字活動のPRと会員募集 (6,000部)	地区・分区、各施設 活動資金協力者ほか
赤十字運動用PRポスター	赤十字活動のPRと会員募集 (2,870部)	地区・分区、各施設ほか
赤十字NEWS	日本赤十字社広報紙 (24,500部)	赤十字会員、赤十字関係者
活動紹介DVD	日本赤十字社活動紹介DVD 「赤十字この一年」	地区・分区、各施設

(2) 支部作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動資金募集用チラシ	赤十字活動のPRと会員募集 (514,000部)	一般
支部広報誌「赤十字しが」	滋賀県支部の事業実施状況報告 (15,000部)	赤十字会員、奉仕団、地区・ 分区、各施設ほか
赤十字PRパネルB0版	赤十字活動のPRと会員募集	各施設
事業報告書	滋賀県支部の事業実施状況報告	支部役員・評議員、地区・分 区、各施設
ポケットティッシュ	赤十字活動PRと地域奉仕団員 募集 (31,500個)	地区・分区、奉仕団、各施設

(3) 世界赤十字デー周知キャンペーン

ア 赤十字フラッグの掲揚

- ・期間 5月1日～5月31日
- ・場所 彦根市役所前道路

(4) 主な広報活動

ア テレビスポットによる広報

びわ湖放送株式会社様のご協力を得て、以下のとおりテレビスポットによる広報を実施した。

- ・期間 5月1日～31日（6月以降も放映）
- ・TV - CM15秒/30秒

イ ラジオスポットによる広報

株式会社エフエム滋賀様のご協力を得て、以下のとおりラジオスポットによる広報を実施した。

- ・期間 5月1日～31日（6月以降も放送）
- ・ラジオCM20秒

ウ JR駅構内でのB2ポスターの掲出

- ・期間 5月1日～7日

エ 京阪電車へのA3ポスターの掲出

- ・期間 2月1日～1月31日（年間）

オ 平和堂、近江鉄道等でのB2、B3ポスターの掲出

- ・期間 5月1日～31日

カ SNS（Instagram）アカウントの開設

幅広い年代に赤十字の活動について知っていただくことを目的として、Instagramアカウントを開設した。

キ 懸垂幕の掲出

- ・場所 日本赤十字社滋賀県支部事務所ビル横
- ・内容 人間を救うのは、人間だ。― 赤十字活動資金に協力下さい。―

ク 支部ホームページの充実

不特定多数の方々にPRが図れる広報媒体であることから、当支部をはじめとする日本赤十字社の活動紹介、救急法等の健康・安全講習の案内、青少年赤十字活動の紹介など、更なる赤十字活動の発信に努めた。また、地区分区業務の効率化及び赤十字事業の情報共有を目的とし、地区分区専用ページの運用を開始した。

(5) 「ACTION! 防災・減災」の実施

「ACTION! 防災・減災」は、東日本大震災から10年が経つ令和3年3月11日を機に、改めて日本赤十字社から防災・減災のメッセージを打ち出し、「風化防止」や「復興支援」にとどまらず、未来に目を向けた「防災・減災への備え」を訴求し、防災意識を高める取り組みを昨年を引き続き実施した。

ア 期間：令和4年3月1日～3月31日

イ キャンペーンの内容

① 寄付による支援

本キャンペーンの実施にあたり、以下の企業・団体からご寄付によるご支援をいただいた。

○ご支援いただいた企業団体 計15企業・団体

株式会社アインズ、甲賀高分子株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、株式会社近畿理研、近江ユニキャリア販売株式会社、滋賀TCM株式会社、山豊テグス株式会社、有限会社天平フーズ、株式会社シガウッド、ビル管財株式会社、中央環境サービス株式会社、平和発條株式会社、三陽建設株式会社、熊谷電工株式会社、株式会社フジケン（順不同）

② ポスター掲示

期間中、以下の企業・団体等の事業所などにポスターを掲出した。

○ご賛同いただいた企業・団体 計15企業・団体

株式会社アインズ、甲賀高分子株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、株式会社平和堂、大塚オーミ陶業株式会社、米原市、社会福祉法人米原市社会福祉協議会、ピー・エス・コンクリート株式会社滋賀工場、山豊テグス株式会社、有限会社天平フーズ、株式会社シガウッド、ビル管財株式会社、中央環境サービス株式会社、平和発條株式会社、三陽建設株式会社（順不同）

13 有 功 会

日本赤十字社滋賀県支部有功会は、金色有功章を受章され、趣旨に賛同された方々により、昭和48年10月1日、会員58人で発足。平成9年より銀色有功章受章者まで会員範囲を拡大し、会員相互の親睦や健康の保持、赤十字思想の普及と重要業務の進展に協力、人類福祉の増進に寄与することに努めている。

なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、集合形式による事業は中止を余儀なくされた。

(1) 会員の数（個人・法人）

前年度末会員数	本年度新規会員数	退 会 者 (亡くなられた方を含む)	年度末会員数
372人	10人	22人	360人

(2) 事業内容

ア 有功会総会の開催

令和3年7月19日付文書審議

審議内容

- 令和2年度有功会事業並びに収支決算報告書
- 令和3年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）
- 役員を選出について

イ 特別講演会＜中止＞

講師 長浜赤十字病院 院長 楠井 隆氏

ウ 会員懇親会＜中止＞

エ 日赤紺綬・有功会会長協議会総会

令和3年10月7日付文書による審議

オ 会員親睦旅行＜中止＞

令和3年11月中旬 1泊2日

広島・安芸の宮島 神饌の宿 みや離宮

カ 会員健康診断

	2日(1泊)	1日
大津赤十字病院	20人	46人
長浜赤十字病院	0人	6人
合 計	20人	52人

キ 大津赤十字看護専門学校卒業生に卒業記念品の贈呈

令和3年度大津赤十字看護専門学校卒業生28人に卒業記念品〔真空断熱ケータイマ
グ（水筒）〕を贈呈した。

ケ 青少年赤十字活動支援

「青少年赤十字メンバートレーニングセンター」が、新型コロナウイルス感染症の拡大により、急遽中止となったが、参加予定のメンバー55人に対し、記念品を贈呈した。

コ 災害救護活動支援

災害時に救護班が携行する非常食86食を滋賀県支部へ寄贈した。

サ 国際活動事業の支援

NHK 海外たすけあい 支援金額 30,000円

シ 法人会員による「ACTION！防災・減災」への協力

協力企業 15社

滋賀双葉ビル整備 株式会社	甲賀高分子 株式会社
大塚オーミ陶業 株式会社	有限会社 天平フーズ
平和発條株式会社滋賀工場	三陽建設 株式会社
熊谷電工 株式会社	山豊テグス 株式会社
株式会社 シガウッド	ビル管財 株式会社
ピー・エス・コンクリート株式会社滋賀工場	
株式会社 近畿理研	株式会社 フジケン
滋賀TCM 株式会社	中央環境サービス 株式会社

ス 役員会等の開催

令和4年3月11日付文書審議

- ・平成3年度有功会事業報告並びに収支決算について
- ・令和4年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）について

14 一般会計決算概要

歳 入

(単位：円)

科目	年度	令和3年度 決 算	令和2年度 決 算	比較増減	対前年度比 (%)	付 記
1	一般社資収入	497,860,246	189,164,058	308,696,188	263.2	
2	法人社資収入	35,689,059	35,230,549	458,510	101.3	
3	委託金等収入	0	0	0	-	
4	補助金及び交付金収入	3,018,184	4,210,353	△ 1,192,169	71.7	施設整備交付金、現物給付ほか
6	繰入金収入	4,123,300	50,000	4,073,300	8,246.6	特別退職金積立留保金繰入金ほか
7	資産収入	200,400	284,500	△ 84,100	70.4	社宅収入
8	雑収入	1,476,146	723,633	752,513	204.0	利子収入、講習等負担金収入、青少年赤十字等行事参加収入ほか
9	前年度繰越金	56,775,006	28,009,904	28,765,102	202.7	
	歳入合計	599,142,341	257,672,997	341,469,344	232.5	

歳 出

(単位：円)

科目	年度	令和3年度 決 算	令和2年度 決 算	比較増減	対前年度比 (%)	付 記
I	災害救護事業費	25,517,149	24,757,348	759,801	103.1	
1	災害救護指導事業費	20,067,614	19,466,286	601,328	103.1	救護員の養成訓練、災害救助に要した費用
2	災害救護装備費	2,326,395	2,087,272	239,123	111.5	災害救護資材整備等に要した費用
3	非常災害救援物資整備費	0	0	0	-	
4	救護看護師指導養成費	3,123,140	3,203,790	△ 80,650	97.5	救護看護師の養成に要した費用
II	社会活動費	30,427,676	29,875,665	552,011	101.8	
1	救急法等普及費	4,874,014	4,401,975	472,039	110.7	救急法、健康生活支援講習等の普及費用
2	奉仕団活動費	14,500,369	15,165,742	△ 665,373	95.6	奉仕団育成に要した費用
3	青少年赤十字活動費	7,916,743	7,195,501	721,242	110.0	青少年赤十字育成に要した費用
4	社会福祉活動費	53,920	51,680	2,240	104.3	社会福祉活動に要した費用
5	医療事業費	67,322	11,708	55,614	575.0	衛生普及に要した費用
6	血液事業費	3,015,308	3,049,059	△ 33,751	98.9	血液事業の普及等に要した費用
III	国際活動費	29,172	0	29,172	-	国際赤十字等による救援活動等に要した費用（ハイチ地震）
IV	指定事業地方振興費	3,329,172	2,500,000	829,172	133.2	
1	災害救護設備整備費	3,200,000	2,400,000	800,000	133.3	災害救護資機材に要した費用
2	支部国際活動基金積立金	29,172	0	29,172	-	国際赤十字等による救援活動等の資金積立に要した費用（ハイチ地震）
3	募集事務費	100,000	100,000	0	100.0	社資募集に要した費用
V	地区区分交付金支出	12,510,614	14,033,039	△ 1,522,425	89.2	地区区分に対する社員管理事務及び募集事務等に要した費用
VI	社業振興費	19,446,288	19,740,730	△ 294,442	98.5	広報及び社資募集に要した費用
VII	基盤整備交付金・補助金支出	14,349,376	17,756,700	△ 3,407,324	80.8	
1	施設操出金	5,000,000	10,000,000	△ 5,000,000	50.0	新型コロナウイルス感染症に対応する県内赤十字施設への支援費用
2	使途指定寄付金操出金	9,349,376	7,756,700	1,592,676	120.5	医療施設への使途指定寄付金
VIII	総務・管理費	44,427,200	43,885,800	541,400	101.2	給与費、庁舎管理等に要した費用
IX	本社送納金支出	78,829,010	32,564,191	46,264,819	242.1	本社社資送納金
X	その他	370,276,684	72,559,524	297,717,160	510.3	
1	積立金支出	308,167,892	15,784,518	292,383,374	1,952.3	災害等資金積立金、施設整備準備資金積立金、退職給与資金積立金ほか
2	予備費	0	0	0	-	
3	翌年度繰越金	62,108,792	56,775,006	5,333,786	109.4	
	歳出合計	599,142,341	257,672,997	341,469,344	232.5	

II 医療事業・医療施設特別会計決算概要

県内3つの赤十字病院において、災害時は、救護活動、平時には一般医療・救急医療・健康相談等医療社会活動を実施し、地域住民の医療確保と福祉の増進に努めている。

1 大津赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医師	看護師	その他	計	延人数	一日平均	一日平均対前年比	延人数	一日平均	一日平均対前年比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
684	663	231.7	782.9	428.8	1,443.4	185,648	509	99.4	351,185	1,451	98.2

(2) 医療施設の経営状況

令和3年度の医業収益は、令和2年度新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んだ入院収益及び外来収益の若干の回復を見せ、対前年度約2.5億円の増収となった。対する医業費用は、材料費、給与費は減少したが、過年度下水道使用料支払いによる経費の増加により、対前年度約3.6億円増加した。また、医業外においては、新型コロナウイルス感染症患者専用病床確保補助金増加に伴い、運営費補助金収益が増加した。これらにより、医業収支では約16.7億円の赤字、総収支では約5.9億円の黒字決算となった。

コロナ禍において、職員の出勤停止や病棟閉鎖等による診療制限がかかるなか、感染症対策や感染患者入院受入と並行しながら、従来の急性期医療の診療機能を維持した1年であった。

① 病院経営の健全化

・重要業績指標

ア 新入院患者数	【目標：1日あたり50人以上】
実績：43.2人/日	対前年度0.5人増加
イ DPCⅡ期以内の退院割合	【目標：70%以上】
実績：65.9%	対前年度1.6ポイント増加
ウ 病床稼働率	【目標：93%以上】
実績：76.9%	対前年度1.7ポイント増加
エ 救急搬送入院率	【目標：40%以上】
実績：47.4%	対前年度1.5ポイント増加
オ 紹介患者数（検査紹介除く）	【目標：月1,600人以上】
実績：1,372人/月	対前年度66人増加

・手術件数・全身麻酔件数

手術件数	6,464件/年	対前年度185件減少
【再掲：高額手術件数	2,308件/年	対前年度40件減少】
全身麻酔件数	2,122件/年	対前年度22件増加

② 新型コロナウイルス感染症対策

令和2年度に続き、院内に新型コロナウイルスを持ち込まない、職員の濃厚接触者

を出不さいとの方針で各種感染症対策を実施した。

- サーモグラフィ設置による外来入口等での有熱患者のトリアージ
- 医療用コンテナでの有熱患者の検査対応
- 新型コロナウイルス感染症専用病床確保による感染患者受入体制の継続
- 入院患者さんへの面会禁止の制限
- コロナ禍における医療従事者としての責任ある行動指針の提示 等

また、感染力が高いオミクロン株がまん延した令和3年の年明けからの第6波の時期には、職員家族の勤務先や学校での濃厚接触者や二次接触者が多く発生した。発生状況確認の翌日に早急にPCR検査を行い、職員の出勤制限日数短縮を行う対策により、医療提供体制を継続した。

③ 医療の質の確保

高度で良質な医療の提供を目指す取り組みとして予定していた業務改善事例発表会や臨床指標研修会の院内イベントもコロナ禍のため中止または縮小しての開催となった。

令和3年9月中に予定していた電子カルテシステムや部門システムを含む総合医療情報システムの更新作業は、システム障害等の大きなトラブルなく実施された。

今回のシステム更新では、電子カルテ機能において眼科および歯科専用システムの導入、既存システム（給食管理システム、物流システム）のベンダーチェンジ等により、更なる業務精度、業務効率向上を図った。また、システム環境面においては、ネットワーク環境（Wi-Fi環境）の充実、部門システム系サーバの仮想基盤構築（サーバの統合）、情報漏洩やコンピュータウイルス対策等のセキュリティ面の強化を実施した。

④ 地域との医療連携

地域医療支援病院として地域の協力医療機関との連携強化等を目的に、新規開業医を含め約200件を超える開業医訪問を実施した。

一方、新型コロナ感染症の影響により、例年実施していた各種地域の医療従事者公開研修会や講演会等は前年度に引き続き回数を大幅に減らした。地元医師会員との交流の場である『地域医療連携懇話会』や『病院見学会』はWeb開催とした。

患者数としては、紹介患者数（検査紹介含む）19,404人と対前年度813人増加（前々年度比1,705人減少）、逆紹介患者数も18,669人と対前年度657人増加した。大津赤十字志賀病院からの紹介患者数は、777人で対前年度22人減少（前々年度比102人の減少）した。

⑤ 救急医療・災害医療への対応

高度救命救急センター、総合周産期母子医療センターとして、高度医療体制の充実に向け引き続き取り組んだ。大津消防圏内での救急車出動件数は、コロナ禍ではあるが少し回復傾向の前年度比約8%増加となり、当院救急センターの救急車による搬送患者数は6,452人对前年度161人増加、うち入院患者数は3,059人で対前年度172人増加した。救急搬送入院率は過去最高であった前年度の入院率から更に1.5%増加の47.4%となった。新生児専用のドクターカーの出動件数は、114件で対前年度13件の増加となった。

また、県下の基幹災害拠点病院および原子力災害拠点病院として、院外で開催された近畿地方DMATブロック訓練、滋賀県DMAT災害医療従事者強化研修、滋賀県原子力災害訓練、特殊災害を想定したNBC災害医療研修等に参加している。

院内では赤十字救護班基礎教育研修会、事業継続計画（BCP）検証会を開催したが、

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、通常300人規模で実施する「大規模災害時多数傷病者受入訓練」は前年度に引き続き中止とした。

一方、行政からの依頼による新型コロナウイルス感染症対策として津市内医療従事者へのワクチン接種対応や津市民への集団接種、滋賀県危機管理センターに設置された「見守り観察ステーション」へのスタッフ派遣等に対応した。滋賀県COVID - 19災害コントロールセンターへのDMAT隊員（災害医療コーディネーター）の派遣は現在も継続中である。

⑥ 人材育成と確保、職場環境の改善

自院の将来を担う人材の確保並びに人材育成を引き続き推進した。また、医師の働き方改革の一環として入院患者さんへのインフォームド・コンセント（IC：説明と同意）対応時間を原則平日時間内にする方針とし、各病棟に面談室を設置する等の対応を行い、医師の休日、時間外業務の短縮を図った。

⑦ 待遇、（来院者・職員）満足度の向上

病院機能評価機構の患者満足度調査に参加して、アンケート調査結果の他施設との比較を実施し当院の現状を把握した。

職員へは、「パワーハラスメント撲滅宣言」を病院幹部が率先して宣言するとともに、管理職向けパワハラ研修会の開催、院内報でのハラスメント防止関連記事掲載による周知を実施し、働き易い職場環境の醸成に努めた。

(3) 決算概要

収益的収入及び支出

(単位：千円)

科 目	令和3年度決算額	令和2年度決算額	比較増減	対前年度比%
病院収益	22,697,145	21,567,395	1,129,750	105.2
医業収益	19,951,133	19,694,708	256,425	101.3
医業外収益	2,680,341	1,804,403	875,938	148.5
医療社会事業収益	0	0	0	-
付帯事業収益	65,670	65,377	293	100.4
特別利益	0	2,906	△ 2,906	-
病院費用	22,104,095	21,772,013	332,082	101.5
医業費用	21,625,243	21,260,818	364,425	101.7
医業外費用	172,673	154,712	17,961	111.6
医療奉仕費用	160,581	201,261	△ 40,680	79.8
付帯事業費用	127,555	147,081	△ 19,526	86.7
特別損失	15,744	7,564	8,180	208.1
法人税等	2,297	574	1,723	400.2
収支差引額	593,050	△ 204,618	797,668	

資本的収入及び支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	172,060	固定資産	1,715,368
資産売却収入	3,080	借入金等償還	1,478
その他資本収入	1,541,706		
計	1,716,847	計	1,716,847

2 大津赤十字志賀病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可病床 (床)	実働病床 (床)	医師 (人)	看護師 (人)	その他 (人)	計 (人)	延人数 (人)	一日平均 (人)	対前年比 (%)	延人数 (人)	一日平均 (人)	対前年比 (%)
150	150	19.1	87.9	57.6	164.6	33,724	92.4	98.1	55,104	227.7	103.8

(2) 医療施設の経営状況

令和3年度は医業収益が8.2%の増収であり、内訳としては入院診療収益プラス8.8%・外来診療収益プラス11.5%・保健予防活動収益プラス1%であった。医業費用は1.7%増加したが、材料費は11.0%増加し、給与費はマイナス3.9%でしたが依然対収益74.8%と高い状況である。

新型コロナウイルス感染症拡大により、急性期病棟である2階50床を受け入れ病棟としたことや、外来患者数は僅かな増加であり、その結果、医業収支は3億2千6百万円の大規模なマイナスとなったが、総収支は県・大津市保健所等の行政からの要請に積極的に応えることで、結果的に各方面よりの手厚い補助事業を受ける事となり、総収支は7億円の黒字となった。

① 医師及び看護師の確保

令和3年度としては増員は無く、医師は循環器科1人の減員が有り、看護師は大津赤十字病院へ異動者もあり8人の減であった。医療従事者確保の重要性が今後ますます高まっている。

② 健全経営の推進

地域包括ケア病棟は年間平均78.9%の稼働率を維持できたが、急性期病棟は感染症対応したこともあり年間平均34.3%、療養病棟は71.6%と落ち込んだ。

また、外来診療収益においても昨年と比較すると回復している様に見えるが、一昨年以前と比べると継続的な患者数減による影響を受けている。

③ 病院機能のあり方

2025年超高齢化社会の到来に対応するために、急性期（2F50床）、回復期（3F50床）、慢性期（4F50床）の届出を行い、病棟運営を行っていたが、療養病棟の安定稼働には至らず、また急性期病棟や回復期病棟の安定的運営を目指し、今後も救急医療や地域連携に取り組んでいく。

また、新型コロナウイルス感染症対応等に見られた、行政からの要請は積極的に対応を行った。

④ 施設整備・修繕、医療器械の新規購入・更新

新型コロナウイルス感染症患者受入れのために、院内で結果の出る検査装置の導入や、平成14年より使用していた全自動錠剤分包機・超音波診断装置・移動型X線撮影装置の更新や、産婦人科外来開設のための機器を一式導入した。

また訪問診療用車両の更新と、全社統合コンピューターシステムを導入した。

⑤ 病診連携を図り地域医療の確保

平成26年1月よりスタートした医療従事者を対象としたOK（大津北の方）ミーティ

ングはWeb会議となり開催された。

⑥ 地域住民との交流

平成28年度からの取組みを継続して「志賀日赤の健康教室」を年5回開催し、そのうちの1回を社会福祉協議会志賀ブロックと共催していた健康いきいき祭り等は全て中止となった。

また、当院発行の広報誌「志賀日赤だより」の地元自治会のご協力を得て行ってきた全戸配布は堅田及び日吉台地域を除き継続して行った。また、地元自治会の運営する「わにコミュニティーバス」の運行にも協力を行った。

⑦ 初期研修医教育及び学生実習

大津赤十字病院より初期研修医の地域医療の実習を1カ月交替にて14人の研修医を受け入れた。

また、自治医科大学、滋賀医科大学の学生実習は新型コロナウイルス感染症拡大により受け入れは中止となった。

⑧ 災害救護活動への参加

災害救護訓練はすべて中止となったが、新型コロナウイルス感染症の拡大は災害であると捉えて帰国者・接触者外来・新型コロナウイルス感染症陽性者受入（20床→22床）現在は25床、地域検査センター（ドライブスルーPCR検査）と、行政からの要請は全て応えて病院をあげて取り組んだ。

(3) 決算概要

収益的収入及び支出

(単位：千円)

科 目	令和3年度決算額	令和2年度決算額	比較増減	対前年度比%
病院収益	2,982,302	2,883,156	99,146	103.4
医 業 収 益	1,926,371	1,779,571	146,800	108.2
医 業 外 収 益	999,978	1,102,871	△ 102,893	90.7
医療社会事業収益	0	0	0	-
付 帯 事 業 収 益	0	0	0	-
特 別 利 益	55,952	714	55,238	7,836.4
病院費用	2,281,672	2,251,851	29,821	101.3
医 業 費 用	2,252,243	2,215,380	36,863	101.7
医 業 外 費 用	1,773	1,826	△ 53	97.1
医療奉仕費用	22,661	34,530	△ 11,869	65.6
付 帯 事 業 費 用	0	0	0	-
特 別 損 失	4,995	115	4,880	4,343.5
法 人 税 等	0	0	0	-
収支差引額	700,629	631,305	69,324	

資本的収入及び支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	495	固定資産	55,249
その他資本収入	54,939	借入金等償還	185
計	55,434	計	55,434

3 長浜赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可病床 (床)	実働病床 (床)	医師 (人)	看護師 (人)	その他 (人)	計 (人)	延人数 (人)	一日平均 (人)	対前年比 (%)	延人数 (人)	一日平均 (人)	対前年比 (%)
492	491	109.6	587.7	247.3	944.6	136,817	375	100	224,780	929	105

(2) 医療施設の経営状況

・収支の推移

新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、入院・外来患者数は増加し、診療単価も増加したことから医業収益は増収となった。

医業外収益は、運営費補助金等収益として、新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業補助金（37億1千万円）等の交付により前年度より大幅な増加となった。

医業費用においては、入院・外来患者数は増加に伴い、材料費・給与費・委託費・設備関係費・研究研修費・経費すべてにおいての増加となった。特に、材料費では新型コロナウイルス感染症防止対策による診療材料費の増加による影響もあり、対前年度比約6億3百万円の増加となった。

収支差引額として、医業収支では1千9百万円の黒字となり、総収支は、新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業補助金等により、41億6千6百万円の黒字となった。

・患者数と病床利用率の推移

入院・外来患者数ともに増加した。病床利用率は、4東病棟をコロナ対応病床としており、R2に続き下がったままとなった。

外来患者数は、R2年度比診療日数が1日少なかったものの増加となった。

・診療単価の推移

入院診療単価は、平均在院日数の短縮・DPC係数UP・手術件数の増加・新型コロナ関係の診療報酬算定等により増加となった。（前年度比3,245円増）

外来診療単価は、日帰り手術の増加・院内トリアージ加算の算定等により増加となった。

① 経営健全化の推進

病診連携体制を推進し、地域の医療機関との連携体制を図るとともに、湖北地域の中核病院として急性期医療を推進し、不要不急の費用の節減に努め、より一層の経営改善に努める。

1. 新入院患者数……………9,707人	2. 平均在院日数……………12.0日
3. 病床稼働率……………76.3%	4. 紹介患者数……………4,129人
5. 紹介率、逆紹介率……………84.4%、61.4%	6. 救急搬送入院率……………45.0%
7. 手術件数……………4,135件	8. 全身麻酔件数……………2,133件

② 新型コロナウイルス感染防止対策の強化

入院患者への面会禁止、院内トリアージの徹底、緊急入院患者への新型コロナウイルス抗原定量検査および術前患者へのPCR検査を実施した。

新型コロナウイルス感染症重点医療機関として受け入れ病床24床（うち重症7床）を確保した。

帰国者・接触者外来には保健所や地域の開業医等から平日休日を問わず外来患者を受け入れると共に、行政検査にも委託検査機関としての対応を行った。

県内全域より中等症患者の直接の入院や、他病院からの重症化の兆しのある患者及び妊婦・透析患者・小児患者など、他の医療機関で受入困難な患者等の受入れも行った。

③原子力災害医療の強化

滋賀県基幹原子力災害拠点病院の指定を受けており、令和2年度に国の補助金を財源としたて新築した原子力災害対策施設を利用して、滋賀県原子力防災訓練と同時に院内原子力災害医療対応訓練を実施した。長浜市は原子力事業所から約45kmの位置にあり、原子力災害対策として災害マニュアルを策定し、原子力災害医療対応基礎研修や汚染患者の医療対応訓練研修などを行った。

④災害救護体制の充実

新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、感染防止対策を徹底しながら、R2年度より多くの研修および訓練が行えた。救護班研修や保健所と協同訓練を開催するなど災害体制の充実と強化を図った。

⑤周産期医療体制の強化

市立長浜病院における分娩（お産）等の一時休止を受けて、地域周産期母子医療センターとして湖北・湖東医療圏における医療機関との連携を図った。

(3) 施設等整備

施設整備としては、高圧受電ケーブル敷設工事を行った。

機器整備としては、医療用器械備品を一部補助金を財源とし、泌尿器科検診台（支部繰入金）、人工呼吸器他18点（新型コロナウイルス感染症重点医療機関等設備整備）、救急処置台ほか3点（原子力災害拠点病院等施設設備整備補助金）、手持ち血圧計（長浜市新型コロナウイルス感染症対策支援交付金）、空気清浄機ホスピガード12台（新型コロナウイルス感染症患者入院医療機施設・設備整備事業補助金）、フラミンゴナノ（新型コロナウイルス感染症対策経営力強化支援補助金）、デジタルサイネージ4台（新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関における外国人受入れ体制確保事業費補助金）、プレジジョンフロー（新型コロナウイルス感染症対策整備支援金）、サイレンチェアスクリーン（寄付金）など全180点を整備した。

その他器械備品としては、電動ベッド2台（新型コロナウイルス感染症対策整備支援金）など全30点を整備した。

車両関係としては、公用車両を1台更新。地域医療体制整備事業補助金を一部財源として、訪問看護利用車両を1台整備した。

無形固定資産のソフトウェアは、保健医療機関等向け医療提供体制交付金を一部財源としてオンライン資格確認システムを整備した。

(4) 決算概要

収益的収入及び支出

(単位：千円)

科 目	令和3年度決算額	令和2年度決算額	比較増減	対前年度比%
病院収益	16,957,481	14,678,218	2,279,263	115.5
医業収益	12,535,333	11,712,186	823,147	107.0
医業外収益	4,317,577	2,872,207	1,445,370	150.3
医療社会事業収益	5,779	5,282	497	109.4
付帯事業収益	98,115	88,539	9,576	110.8
特別利益	677	4	673	16,925.0
病院費用	12,791,720	12,167,231	624,489	105.1
医業費用	12,516,121	11,912,281	603,840	105.1
医業外費用	23,686	21,622	2,064	109.5
医療奉仕費用	145,417	143,937	1,480	101.0
付帯事業費用	100,247	86,099	14,148	116.4
特別損失	6,249	3,292	2,957	189.8
法人税等	0	0	0	-
収支差引額	4,165,761	2,510,987	1,654,774	

資本的収入及び支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	187,064	固定資産	768,861
その他資本収入	1,049,352	借入金等償還	467,555
計	1,236,416	計	1,236,416

Ⅲ 血液事業概要

滋賀県赤十字血液センター

血液製剤の均質性・安全性の向上と安定供給の促進及び事業効率の改善を通じた健全な経営基盤の構築を目的として、広域血液事業運営体制が導入され、近畿ブロック血液センターの令和3年度事業方針に基づき事業を遂行した。

特に、将来にわたって安定供給を確保していくため、10代、20代、30代の若年層献血者数を増加させていく必要があり、若年層からの献血への理解を得るために、同世代の学生献血推進協議会や各種学生団体と最大限に連携し、初回献血者、複数回献血者数の確保を積極的に行った。

医療機関から発注される赤血球製剤の95%以上が400mL製剤であることから、400mL献血を推進した結果、全血献血に占める400mL献血の比率は96.7%となった。あわせて、稼働効率（1稼働あたりの採血数）は事業効率に直結し財政基盤の安定化に不可欠であることから更なる向上を目指した結果、移動採血1稼働あたり採血数は51.8人となった。

本年度の献血者数は51,368人となり前年度比96.6%となった。輸血用血液製剤の供給数は171,170単位で前年度に比べ106.3%となった。

全血採血に優位な滋賀県の採血環境から、成分採血における自給率は低いものの、分割血小板採血の増加等により、近畿ブロック血液センターからの採血指示に基づく採血を実施し、県内医療機関には安定的に輸血用血液製剤を供給した。

(1) 献血及び供給状況の推移

年 度	献 血 状 況		供 給 状 況	
	献血者数（人）	対前年比（%）	供給数（単位）	対前年比（%）
平成29年度	47,057	103.3	181,529	98.3
平成30年度	47,785	101.5	160,605	88.5
令和元年度	50,073	104.8	175,300	109.1
令和2年度	53,176	106.2	160,979	91.8
令和3年度	51,368	96.6	171,170	106.3

(2) 令和3年度採血の実績

献血者数

	計 画（人）	実 績（人）	達成率（%）	対前年度比（%）
200mL献血	631	1,333	211.3	86.0
400mL献血	36,970	38,534	104.2	96.9
血漿献血	6,123	6,571	107.3	95.5
血小板献血	4,732	4,930	104.2	99.4
計	48,456	51,368	106.0	96.6

※ 400比（全血献血に占める400mL献血の比率） 96.7%（令和2年度：96.3%）

(3) 令和3年度供給の実績

供給（県内医療機関への供給単位数）

	計 画（単位）	実 績（単位）	達成率（％）	対前年度比（％）
全血製剤	0	0	－	－
赤血球製剤	61,800	64,270	104.0	107.4
血漿製剤	19,200	18,300	95.3	105.9
血小板製剤	85,000	88,600	104.2	105.7
計	166,000	171,170	103.1	106.3

※ 血液製剤は、200mL相当を1単位とした換算数である。

(4) 滋賀県における献血／供給比率

赤血球製剤

年 度	献 血（単位）	供 給（単位）	献血／供給（％）
平成29年度	74,468	64,699	115.1
平成30年度	75,092	61,669	121.8
令和元年度	77,663	62,744	123.8
令和2年度	81,120	59,843	135.6
令和3年度	78,401	64,270	122.0

血小板製剤

年 度	献 血（本）	供 給（本）	献血／供給（％）
平成29年度	5,518	9,484	58.2
平成30年度	5,182	7,802	66.4
令和元年度	4,889	9,156	53.4
令和2年度	4,958	8,340	59.4
令和3年度	4,930	8,684	56.8

※ 平成26年度より血小板高単位献血（20単位）からの分割製剤（10単位2本）施行

(5) 献血推進の取組み

① 愛の血液助け合い運動

7月1日から31日まで、国・県・日本赤十字社の主催により、多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に行われた。当県では例年「献血功労者表彰式を開催しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。※各団体および個人に対する表彰は例年同様に実施し、記念品等は郵送にて対応した。

② 全国学生献血キャンペーン

滋賀県学生献血推進協議会が7月に「学生サマー献血キャンペーン」を、12月に「全国学生クリスマス献血キャンペーン」をいずれもJR近江八幡駅において開催した。

血液が不足する時期でのキャンペーンは効果的であり、大学生たちが同年代の若者に献血への理解と協力を呼びかけた。

③ はたちの献血キャンペーン

1月1日から2月28日まで、(社)日本民間放送連盟・(社)日本民営鉄道協会・(社)日本コミュニティ放送協会の後援を得て、山之内すず、ぺこばをキャンペーンキャラクターに起用し実施した。

滋賀県赤十字血液センターは滋賀県と協力し、期間中にご協力いただいた10代・20代(高校生除く・先着500人)の方にポケットサーモボトルをプレゼントするなど若年層を中心とした献血の推進に努めた。

④ 若年層対策事業

滋賀県赤十字血液センターは若年層確保対策事業として、滋賀県と協働した取り組みを行っている。

<キャンペーンの実施>

計3回、学生を対象としたキャンペーンを実施した。

①期 間：7月～8月

対 象：学生(先着350人)

記念品：ポケットサーモボトル

主 催：滋賀県

②期 間：9月～11月

対 象：高校生(先着1,000人)

記念品：ワイヤレスイヤホン

主 催：血液センター

③期 間：12月～3月

対 象：高校生(先着1,000人)

記念品：ワイヤレスイヤホン

主 催：滋賀県